

2025-7

柔道の父 嘉納治五郎 の言葉

嘉納治五郎は明治から昭和にかけての柔道家で教育者。また、講道館柔道の創始者で柔道を含むスポーツ・教育分野の発展や日本のオリンピック初参加に尽力した人物。実は嘉納は学生時代から自分の虚弱な体質を悔しく思い、非力なものでも強力なものに勝てるという柔術を学びたいと考えていた。のちに柔術入門を果たし、その後、崩しの理論などを確立し、独自の「柔道」作り上げた。長い人生の中では負けても、へこたれても、「なに、くそ」と歯を食いしばれる強さが必要です。

今月の
「心にひびく言葉」

「人生には何よりも
『なに、くそ』
という精神が必要だ」